

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1475200885
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス
事業所名	グループホーム パナ園ほりうち家
訪問調査日	平成24年11月28日
評価確定日	平成25年3月1日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1475200885

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475200885	事業の開始年月日	平成16年8月1日	
		指定年月日		
法人名	株式会社アイ・ディ・エス			
事業所名	バナナ園 ほりうち家			
所在地	(211-0062)			
	川崎市中原区小杉陣屋町2-1-12			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.Horiucih@bananaen.com
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほりうち家の理念に元付き地域の中で一人一人が生活して行く中、町内会のお祭りや、総会など積極的に参加し地域との共存を大切にしている。近隣のお誘いでお茶会などにも参加。地域の中の一員としてありのままに共に暮らす事を職員一同で支援している。今後も継続して生きたい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成24年11月28日	評価機関 評価決定日	平成25年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営母体は、株式会社アイ・ディ・エスである。この法人は、社会福祉法人ばなな会と共に、バナナ園グループを構成している。バナナ園グループは、川崎市のグループホームの草分けとして最初のホームを平成10年に開設以来現在は、8事業所を運営している。このホームは、東急東横線武蔵小杉駅又は新丸子駅から徒歩8分の中原街道にも近い場所にあるが、大通りから中に入っている為、周囲は静かである。すぐ近くに日本医大病院もあり、緊急時にも安心である。2書帯住宅であった大家さんの住居を改造してグループホームにした為、ホームの名前も大家さんの名前を残し、家庭的な雰囲気を大事にしている。開所時からの管理者は、法人の理念「明るく・楽しく・自由に」の実現のためには、職員の笑顔が、最も大切だとして、常々職員には、「このホームの玄関を入ったらスイッチをオンして楽しく仕事すること」を指導している。

②このホームの立ち上げの段階で、管理者は、法人の代表から「地域との交流推進」を指示された事もあり、当初より町内会・民生委員や区役所との連携を率先して深め、開設後4ヶ月にして60名もの近隣住民に参加頂き「ほりうち会」(見学会兼食事会)が開催できた。以後、何度か「ほりうち会」を開いた後、平成18年から運営推進会議に移行した経緯を持つ。運営推進会議には、家族会も一緒に行うため出席者が多く、20名を超えるケースもあり、活発な意見交換が行われている。近隣住民には、ホームのバラの手入れを定期的にして頂いたり、自宅のお茶会に利用者全員を招待頂いたりしている。運営推進会議の案内・議事録や毎月のバナナ園ニュースを開所からお世話になっている方々に管理者自身が、個別に配布して会話を交わし、関係継続を図っている。

③開所以来居られる105歳の最年長の利用者を筆頭に、ADLの低下は否めず、外出時は車椅子対応になる利用者が多くなったが、近くに等々力公園があり、四季折々の花を愛でに出かけたり、周辺を散歩する等、外気に触れて機会を持っている。外出率を1/3から1/2に高める事を今後の目標に掲げ取り組んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	バナナ園 ほりうち家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほりうち家の理念に基づき、職員の中で周知されている。明るく楽しく自由は職員が日々実践され、入居者の安心が図られている。	法人の理念「明るく・楽しく・自由に」は職員の中で周知されている。管理者は、職員の笑顔即ち職員が日々楽しく仕事することが、理念の実現に直結する事を常々職員に伝え、実践されている。申し送りの時間を利用して理念の再認識を行っている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おおむね2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、民生委員・高齢者支援課の課長様もほぼ出席して下さり、近隣・家族様と交流ができています。お祭り、総会の参加。	町内会に加入しており、地域の行事（お祭り、盆踊り、運動会等）にも参加している。近隣の住民とは、開所以来管理者が、戸別訪問で関係を築き、ホームのバラの手入れして頂いたり、ご自宅のお茶会に呼ばれたり、交流を深めている。管理者自ら、毎月バナナニュースを開所以来お世話になっている方々には配付し、関係を維持している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お祭りの参加、町内会総会の参加、毎月のバナナニュースのポスティング、掲示板も使用させていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区の支援課・県議員・包括支援センターの方、民生委員・近隣・ご家族が参加され、その内容を議事録として残し、開示されている。	ほぼ2カ月に1回開催し、民生委員・包括支援センター・近隣住民・ご家族に参加頂き、また区役所の高齢支援課の課長もほぼ毎回出席して下さり、活発な意見交換を行っている。運営推進会議の議事録は、参加・不参加に拘わらず、会議の案内をした関係者一同に配布し、またホーム内でも開示している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1度のバナナニュースや、ほりうち会の案内など、直接ご説明後お渡し、日頃の状況なども合わせてお伝えしている。	中原区役所の高齢福祉課とは、緊密に連携しており、運営推進会議に出席して頂いたり、研修の案内を頂いたりしている。月一度のバナナニュースや運営推進会議の案内等、直接出向き、説明後お渡しし日頃の状況等も併せて連絡している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社理念である「自由の原則」を念頭に置き、身体拘束を避けるケアに取り組んでいる。	法人の理念である「自由の原則」を念頭に置き、身体拘束を避けるケアに取り組んでいる。夜間転倒の危険を避けるため、一部の利用者にはセンサー（離床ワカール）設置している。玄関の施錠は、従来は日中開放していたが、現在帰宅願望の強い方がいる為、ご家族の同意を得て、一時的に、施錠している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、職員は身体拘束ゼロへの手引きの元で勉強し周知している。基本的な人権を尊重し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人・高齢者支援課・包括支援センター・民生委員の方々より活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居までに不安や心配事をお尋ねし、十分な説明を行い、理解していただいている。ご家族様の協力が重要である事をお伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を用意し、苦情など気軽に述べられるようにしている。面接時または推進委員会会議時にお話ができるように行っている。	ご家族との関係は密接で、家族会も兼ねて行っている運営推進会議には、5家族も出席頂くこともある。ほんのちょっとしたでも気がついた変化は、こまめにご家族に連絡し、ご意見を聴くようにしている。毎月ご家族には利用者の状況を、お便りで定期的にお知らせしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・常勤・非常勤の勉強会にはほぼ全員が定期的に参加している。 ケア会議など職員の意見を反映するようにしている。	法人による定期的な管理者会議・常勤・非常勤の勉強会にはほぼ全員が出席し、意見を述べる機会を設けている。管理者は、日頃から職員の要望意見は、取り上げるよう心がけており、ケア会議等で職員の意見を反映するようにしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度をふまえて社内・外、研修会、資格取得の推進等行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて定期的な研修・勉強会を行っており、新人の管理者や主任の人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人自ら研修会で、対外的に実施しており、管理者・職員の交流が図れるよう機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1での対応を心掛け、心理状態を把握し環境に慣れていただく。 常に傾聴の気持ちを大切にしている。 アセスメントをしっかりとさせていただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント・モニタリングをさせて頂き、家族の不安、要望などをじっくり聞くようにしている。又、必要があれば電話での相談も常時、気軽に受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適格な支援の内容を見極め、全職員のケア会議で意見を出し合い、対応に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという尊敬の念を持ち「共に生きる、共に寄り添う、共に成長する」の心で支援している。感謝の気持ちを持ち「ありがとう」の声掛けも忘れない。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を重要と感じており、特に訪問された時は、コミュニケーションをとることを大事にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の心の支えとなるものを理解し、関係維持の継続に努めている。	利用者の心の支えとなるものは、ご家族である事を入所時にご家族に伝え、関係継続のためご家族の来所を歓迎し、促している。毎月一度、実家に泊りに行かれるご利用者や、ご家族が友達やお孫さんを連れて来所されたり、ご家族対応でお墓参りや法事等の行事に行かれる利用者も居り、また、昔馴染の美容院に行かれる方等への関係継続の支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わり合いを見守り、支援の必要な時は適切な支援をする。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設への訪問は自由であり、契約が終了したとしても出来る限りアフターフォローし、要請があればいつでも対応出来るよう心掛けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアにおいて希望・意向の把握に努め、本人らしい生活が送れるよう心掛けている。自由に楽しくの理念を心掛けている。	入所時の法人独自のアセスメントで利用者の思いを聞き、日々のケアにおいて希望・意向の把握に努め、更に、ご家族の訪問時に情報を頂きながら、本人らしい生活が送れるよう支援に心掛けている。帰宅願望の強い方には、個別対応で外出したり、遊びの中のアンケート形式で好きな芸能人・好きな・嫌いな食べ物などを尋ねて、本人の意向把握の参考にしたりしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでまず把握し、その後のケア、本人との会話、又、家族訪問時などで更なる情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアにて見落としがないよう心掛け、本人の可能な力を見極め、スタッフとの共同作業に努め、3カ月に1度のケアプラン見直しに反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケア、家族の面会時に運営推進会議で得る情報を生かして介護計画を作成している。	日々のケア、面会時や運営推進会議でご家族から得る情報を活かして介護計画を作成している。毎月1、2回のケース会議で、利用者の現状を把握し、何もなければ、半年に一度ご家族から話をお聴きし（遠方の方には電話にて）モニタリングを行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで見落としがないよう心掛け、情報共有の必要性から個別記録の記入を重要視し、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に応じ、外食・買い物・散歩等を援助し事業所の多機能性を活用・柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年行われる防災、救急訓練、毎月の民生委員との連絡。 音楽療法や傾聴のボランティアなど豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との間に24時間の連携が行われている。隔週で行われている往診・毎年の健康診断・緊急時の対応も随時、と信頼関係を築けている。	かかりつけ医との間に24時間の連携が行われている。隔週で行われる往診及び毎年の健康診断・緊急時の対応も随時に応じて頂いている。主治医不在の場合は、代替の医師も指定されており、信頼関係を築いている。歯科医は、必要に応じて訪問歯科の往診をお願いする。日本医大がホームの近くにあり、いざという時は心強い。非常勤職員の看護師には毎週1度来て頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が職員として勤務している。月4回の健康チェックをしてもらっており、利用者の状態に応じて医療へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医（又は入院先）と家族・介護職員と連絡・相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に理解して頂いている。	「重度化した場合の対応に係る指針」をご家族に理解して頂いている。重度化が進んで来ており、看取り介護の必要性が出てきている。法人の方針でもあり、今年目標として終末期に向けた体制の整備を掲げ、ご家族・医師・職員間での話し合いを計画している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変等の対応」は掲示している。又は年に1度、地域消防署の協力を得て、訓練に取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年防災訓練を行い、災害時の避難場所等の設定も近隣の駐車場を前もって契約しておく等の協力を得ている。	毎年2回防災訓練を行っている。災害時の避難場所の設定も近隣住民の駐車場を前以って契約しておく等の協力を得ている。近々、地元消防署・川崎市本部の消防署の立会いの下夜間検証総合訓練を行う予定で、今後の参考になることを期待している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録や本人の様子を見ながら個々に応じた声掛け、対応を行っている。	利用者は、人生の先輩であるという尊敬の念を持ち「共に生きる、共に寄り添う、ともに成長する」気持ちで支援している。プライバシーの保護については、バナナニュースに利用者の写真が出る場合は、必ず事前にご家族の許可を取っている。議事録への記録はイニシャルを使う等の配慮をしている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを取り組み、その状況に応じた内容で対応している。 又、本人が理解し易い様な声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当園が掲げる「自由の原則」にのっとり、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度、訪問理容をして頂いているが、個人でご家族との外出時に美容院に行かれる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・後片付けと利用者の残存能力を生かし、行っている	今年の9月より、昼食・夕食は業者からの配送される食事を利用して、重度化した利用者への介護サービス時間を充実させている。食事の準備・盛り付け・後片付けには、利用者の残存能力を活かし、手伝って頂いている。お好み焼きや回転ずし等の外食をすることもある。誕生日会は手作りのケーキを楽しむ事もある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が摂りにくい方には、補助食品・ゼリー飲料などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	少なくとも朝・夕は行っており、利用者の様子を見て随時、行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツの使用者が多いが、全員トイレでの排泄である。必要に応じて声掛け、誘導を行っている。	リハビリパンツの使用者が多いが、利用者全員トイレでの排泄を行っている。排泄に関しては、自立された方が多いが必要に応じて声掛け、トイレ誘導も行っている。トイレには、大きな文字で表示されており、自立した利用者に分かりやすい工夫がなされている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを1日1回は摂って頂くようにしている。又、日中もラジオ体操や家事等を手伝って頂き、活動的に過ごして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を尊重し、週に2回以上は入浴できるよう支援している。又、職員が交代し、声掛け、誘導を行う等している。	利用者本人の意思を尊重し、週に2回以上は入浴出来るよう支援している。入浴拒否の方には、職員が交代し声掛け誘導を行っている。浴室は2年前にリニューアルされ綺麗である。夏場は、足浴も良く行っている。入浴剤やゆず湯等も時々利用し、入浴を楽しんでいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクリエーション、ラジオ体操など利用者様の体調を考慮しながら夜間、快眠が出来る様工夫している。 又、室温にも気を配り安眠できる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の意見を元に薬情報を確認し、その度の変化に合わせ、主治医との連絡を密にとりながら、服薬の支援を職員全員で徹底管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様1人1人の残存能力に合わせ、掃除や料理のお手伝いなど、生活の中でやりがいを持っていただきながら楽しくリハビリが出来る様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は近くの公園へ行き、気分転換して頂く。 又、お買い物にも一緒に同行して頂き、リフレッシュして頂く様、支援している。	ADLの低下により、外出時車椅子の方が多くなったが、気候の良い日は近くの公園に行き気分転換して頂く。買い物にも一緒に同行して頂きリフレッシュして頂くよう支援している。等々カ公園が近く季節に応じて花があり、見物に出かける。遠出の際は、本部より車を借りお花見等に出かけることもある。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理可能な利用者様がいらっしやらないので、ご本人が必要又はほしいと希望される品物についてはご家族に相談しながら購入するよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった時は、速やかに電話をかける様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節を感じられる様、利用者様が作成した塗り絵や貼り絵、又は折り紙などを飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	共用の空間には季節を感じられる様、利用者様が作成した塗り絵・貼り絵・折り紙等を飾り、居心地よい空間作りをしている。開所からの行事のアルバムがリビングに置かれ、時折利用者共々楽しみながらアルバムをめくり、昔の事を思い出している。リビングは広く、日中のレク、ラジオ体操、傾聴ボランティア、音楽療法、カラオケ等利用者の憩いの場所として利用されている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様1人1人が自由に過ごして頂ける様、談話室や食堂のスペースを広くとり、ゆっくりと過ごせる様支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い出の備品、使い慣れた家具などを持ってきていただき、利用者様が不安になる事のない様、又、居心地良く生活できる様、配慮している。	入居時に思い出の備品、使い慣れた家具等を持参して頂き、利用者が不安になることがない様、居心地良く過ごせる配慮をしている。仏壇や遺影を持ち込み毎日水を上げている利用者も居る。居室には文字が表示がされている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには大きな文字が表示がされており、安全でかつ自立した生活がしやすい様、工夫をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

バカ園
ほりうち家

作成日

2012年11月1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	33	終末期に向けた体制の整備（グループホームでの看取りの要望が高まっている）	医師、看護師、介護者、ご家族様が共通の理解をもって対応につなげられる体制作り。（チーム支援）	「重度化に関する指針」マニュアルの理解、他事業所の実績を共有、ホスピスケア等成立条件を整える。	平成25年4月末
2	49	日常的な外出支援	現在、1/3ほどの外出率。→ 改善への取り組みで1/2程度へつなげる。	ご家族様 及び 地域住民のご協力を得ながら、出かけられるよう取り組んでいく。（バナチニュース等の活用）	平成25年9月末

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。